

2025（R7）年度

<2025（R7）/4/1 - 2026（R8）/3/31>

事業報告・活動計算書等

目 次

1 事業報告

- (1) 全 体 1 p
- (2) 山口市市民活動支援センター「さぼらんて」 4 p
- (3) ほっとさろん中市「まちのえき」 24 p
- (4) こども明日花プロジェクト 26 p

2 活動決算

- (1) 決算報告書 34 p
- (2) 各種内訳 46 p

■ 法 人 全 体 事 業 報 告 ■

特定非営利活動法人山口せわやきネットワークは、市民の『まちづくり意識向上』『まちづくり参加』『まちづくり活動展開』のしくみづくりを目指して、平成 15（2003）年 6 月 11 日に法人としてスタートし、15 年目となる平成 30（2018）年 5 月に税制上の優遇措置を受けられる認定資格を取得しました。

この制度をフルに活用し、令和 7（2025）年度は、こども明日花プロジェクトでは、山口県共同募金会の赤い羽根テーマ募金や、物価高の影響を受ける子育て家庭への支援等の協力を呼びかけ、約 900 万円の寄付を集めることができました。

今後も N P O の柔軟性や機動力を生かして、市民を巻き込みながら誰もが幸せに暮らせる地域社会に一層貢献していきたいと考えています。

事業においては、開設 22 年を経た、**山口市市民活動支援センターさぼらんて**の運営（山口市委託）、**高齢者等交流施設ほっとさろん中市まちなえきの運営**（山口市委託）ともに、通常の運営を行いました。平成 28（2016）年度にスタートした**こども明日花プロジェクト**は物価高等による困窮者支援の W A M 助成（補正予算）や休眠預金事業に加え、日本財団子ども第三の居場所助成事業で拠点建設を行うなど、総事業費が 1.2 億円を超えました。寄付金、委託料や民間助成金など、多様な財源を確保し運営しました。

今後も各事業とも、職員や利用者の安全に配慮し、円滑な事業実施に努めるとともに、2026 年は法人設立 23 年になり、初心に戻り、「市民参加によるまちづくり」の実現に向けた取組を続けていきます。

1 会 議

（1）総会

①通常総会

- 日 時：6 月 8 日（日）10:00～12:00
- 場 所：山口市市民活動支援センターさぼらんて、オンライン（zoom）
- 出席者数：正会員 7 名（内、書面表決出席 2 名、委任状 1 名）、監事 1 名、職員 0 名
- 内 容：令和 6（2024）年度事業報告・収支決算、監査報告
令和 7（2025）年度事業計画・活動予算
定款変更、役員改選と監事の追加

（2）理事会

①第 1 回

- 日 時：5 月 2 0 日（火）18:00～19:30
- 場 所：zoom（3 名）
- 出 席 者：理事 3 名（児玉代表、高野理事、藤岡理事） 職員欠席
- 内 容：＜協議＞令和 7（2025）年度事業計画、活動予算
令和 6（2024）年度事業報告、収支決算、総会等
定款の見直し、役員改選
子ども第三の居場所事業に係る土地取得、拠点建設他

④第 2 回

- 日 時：1 1 月 2 0 日（木）13:30～15:00
- 場 所：zoom
- 出 席 者：理事 3 名（高野理事、藤岡理事、児玉代表）、職員欠席
- 内 容：＜報告＞・令和 7（2025）年度事業経過報告、予算の執行状況について
・日本財団子ども第三の居場所・大内拠点の建設の進捗について
＜協議＞・大殿小校区学童保育の運営委託について・賞与支給について

③第3回

- 日 時：2月17日（火）15：30～17：00
- 場 所：日本財団子ども第三の居場所・大内拠点「ぼえぼえ BASE」
- 出席者：理事3名（高野理事、藤岡理事、児玉代表） 職員欠席
- 内 容：＜報告＞令和7（2025）年度事業経過報告
＜協議＞令和7（2025）年度決算見込み
令和8（2026）年度事業計画及び活動予算
日本財団子ども第三の居場所・大内拠点「開所式」2月13日
休眠預金事業における「コミュニティ財団」の設立について

④臨時（日本財団第三の居場所 大内拠点に関する件）

- 日 時：4月1日（火）18：00～18：20
- 場 所：山口市市民活動支援センターさぼらんて、z o o m（高野理事）
- 出席者：理事3名（高野理事、藤岡理事、児玉代表）、職員欠席
- 内 容：＜協議＞日本財団子ども第三の居場所大内拠点に関する「不動産取得」「金融機関からの借入」に関する臨時総会（書面表決）の報告、購入する土地の古家の解体と造成に係る見積を依頼する業者の選定について、設計管理業務の委託について

⑤臨時（日本財団第三の居場所 大内拠点に関する件）

- 日 時：4月8日（火）19：00～19：20
- 場 所：山口市市民活動支援センターさぼらんて、z o o m（高野理事）
- 出席者：理事3名（高野理事、藤岡理事、児玉代表）、職員欠席
- 内 容：＜協議＞大内拠点に関する「車両」購入に係る見積を依頼する業者の選定について

⑥臨時（日本財団第三の居場所 大内拠点に関する件）

- 日 時：4月21日（月）13：00～13：20
- 場 所：山口市市民活動支援センターさぼらんて、z o o m（高野理事）
- 出席者：理事3名（高野理事、藤岡理事、児玉代表）、職員欠席
- 内 容：＜協議＞大内拠点の「車両」購入に係る見積合わせによる発注業者の決定について

⑦臨時（日本財団第三の居場所 大内拠点に関する件）

- 日 時：4月25日（金）18：00～18：20
- 場 所：山口市市民活動支援センターさぼらんて、z o o m（高野理事）
- 出席者：理事3名（高野理事、藤岡理事、児玉代表）、職員欠席
- 内 容：＜協議＞大内拠点の取得土地の古家解体に関する見積合わせによる発注業者の決定、造成工事に関する見積合わせのやり直しについて

⑧臨時（日本財団第三の居場所 大内拠点に関する件）

- 日 時：5月9日（金）18：00～18：20
- 場 所：山口市市民活動支援センターさぼらんて、z o o m（高野理事）
- 出席者：理事3名（高野理事、藤岡理事、児玉代表）、職員欠席
- 内 容：＜協議＞大内拠点の取得土地の造成工事の見積合せによる発注業者の決定について

⑨臨時（日本財団第三の居場所 大内拠点に関する件）

- 日 時：8月13日（水）10：00～11：00
- 場 所：山口市市民活動支援センターさぼらんて、z o o m（藤岡理事）
- 出席者：理事3名（高野理事、藤岡理事、児玉代表）、職員欠席
- 内 容：＜協議＞大内拠点の建設に係る指名入札会社の選定、予定価格、入札等日程について

（3）監 査

- 日 時：5月20日（月）10：00～11：00

○場 所：山口市市民活動支援センターさぼらんて

2 事 業

(1) 山口市市民活動支援センター「さぼらんて」に関する事業 《定款事業①②③》

○令和7年度山口市市民活動支援センター運営事業

◇山口市（協働推進課）委託事業

山口市市民活動支援センター運営事業：委託契約書及び委託仕様書に基づき、「施設管理」「普及・啓発」「相談」「人材発掘・養成」「事務局支援」「ネットワーク」の6機能をベースとして事業実施。新型コロナは収束したものの、時期続き、利用者に対して、安心安全の確保を心がけた。

(2) ほっとさろん中市「まちのえき」に関する事業 《定款事業①》

○令和7度高齢者等交流施設運営事業

◇山口市（高齢福祉課）委託事業

高齢者等交流施設運営事業の委託契約書に基づき、運営法人として「休憩機能」「交流機能」「相談機能」「情報機能」を基本機能として設定、「移動支援機能」を付加機能として実施しました。特に本年度は業務改善を図りながら、施設運営の質の向上に努めた。

(3) こども明日花プロジェクトに関する事業《定款事業②③》 ※＜＞は財源

○学習支援・居場所づくり＜山口市委託事業・寄付＞

○見守り強化事業＜山口市委託事業＞

○こども食堂・子どもの居場所支援センター＜山口県委託事業＞

○ひとり親世帯への支援（シングルカフェ）＜寄付等＞

○こども食堂・地域食堂、小郡中・宮野中 学校朝ごはんなど＜WAM助成（補正）＞

○資金調達 委託、助成金のほか、共同募金、企業、一般などからの寄付等

○新型コロナ緊急支援＜WAM助成（補正）他＞

・ひとり親家庭支援「みんなにエール！弁当」「ごちそうさまプロジェクト」

○休眠預金活用事業通常 2023「居場所のインパクトの可視化」＜休眠預金＞

○日本財団 子ども第三の居場所：萩拠点 Waku② Base、大内拠点「ぼえぼえ BASE」開設事業

(4) その他の市民活動《定款事業①②》

①ホームページの更新

当法人としてのホームページ <https://yamaguchi-sewayaki.com/>

各事業の紹介と賛助会員募集（カード決済可）

②講師等派遣 特になし

《認定NPO法人山口せわやきネットワーク定款抜粋》

【目的】本会は、市民及び市民団体を応援し、もって、みんなの幸せを考え誰もが住みよいまちづくりを目指した新しい社会システムの構築を図ることにより、社会の公益の増進に寄与することを目的とする。

【事業】本会は目的を達成するため、次の事業を行う

①市民のまちづくり意識向上のしくみづくり事業

②市民のまちづくり参加のしくみづくり事業

③市民のまちづくり活動展開のしくみづくり事業

④その他、本会の目的を達成するために必要な事業

令和 7(2025)年度山口市市民活動支援センターさぼらんて事業報告

(令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日)

I 委託契約に基づく事業報告

1. 山口市協働推進プランの位置づけ（抜粋）

(1) 目指す協働による地域づくりの姿

地域を思い、人々が集い行動する「地域経営」へ

～共に話し、共に汗をかく～

(将来にわたり安心して暮らし続けることのできる地域社会を目指す)

地域経営の定義

地域全体で地域の将来ビジョンを共有し、地域の課題解決に向けて地域内外の様々な団体が参加、協議し、役割分担しながら、地域の持てる資源（人、もの、金、知恵）を有効活用して地域を動かし、持続的に地域の暮らしを支えていくこと。

(2) 後期推進計画

基本事業 市民活動の育成と支援の強化

推進項目① 市民活動団体への支援の強化

- ・ 資金調達に向けたクラウドファンディング等活用講座や各種助成金制度の情報提供
- ・ 市民活動団体の活動に関心を寄せる市民の増加を促すため、市広報紙での活動周知や市立図書館等の公共施設における展示やパンフレットの設置などの広報活動
- ・ NPO 法人の新規設立促進、安定的運営の支援
- ・ 市民活動支援センターを中心に、市民活動団体の人材育成に向けた取り組みを推進

② 市民活動団体と市との連携体制の構築

- ・ 市民活動団体と市の担当課等との円卓会議、話し合いの場づくり

③ 各団体間の協働の取組に対する支援

- ・ 市民活動団体や事業者、地域コミュニティ団体等が互いに連携し、幅広い活動の展開に向けた、市民活動支援センターや地域交流センターにおける連携支援の強化
- ・ 商工団体等を協働し、事業者に向けた市民活動団体の活動の認知度向上と、市民活動団体と事業者の協働による社会の課題解決に向けたマッチング支援

④ 市民活動支援センターの機能強化及び環境整備

- ・ 地域と市民活動団体とのマッチング
- ・ 地域住民が市民活動に参画するためのきっかけとなるプログラムの作成
- ・ 子どもや若者の社会貢献活動への参加促進プログラムの作成
- ・ 幅広い世代の市民が交流できる市民活動支援センターの環境整備
- ・ 市民活動支援センターを中心に、高校生や大学生に対して、地域や市民活動等のボランティアのマッチングを行う仕組みづくりの構築

2. 基本目標

個性豊かで活力のある自立した山口市に向けて、

- (1) 市民意識の啓発・参画の促進
 - ・市民と市民活動団体とのマッチング
 - ・HP、SNS によるボランティア情報の充実
 - ・若者の社会貢献活動への参加促進のプログラムづくり
- (2) 市民活動団体、地域コミュニティ・企業・行政など多様な主体の連携に向けての話し合いの場づくり
 - ・テーマ型の円卓会議
 - ・企業等との協働促進に向けた意見交換
- (3) NPOの活動基盤の強化・自立支援
 - ・事務局への伴走支援
 - ・資金調達や情報発信の支援
 - ・リモート会議の支援 など

3. 運営上の工夫

- (1) 市民活動支援を通じて活力ある地域社会に貢献するための職務姿勢
 - ① 「市民活動とは?」「市民の自主自立した運営の在り方」などの意義を伝える姿勢
 - ② 市民団体の自主性を尊重し、共に考え寄り添う姿勢
 - ③ 幅広いネットワークを生かし、団体同士や行政、地域、企業とつなぐ姿勢
 - ④ 常に問題意識を持ち続け、自己研鑽を積む姿勢
 - ⑤ 多様な価値観を受け入れ、誠実で対等なコミュニケーションを心がける姿勢
- (2) 職員配慮事項
 - ① 入しやすい雰囲気づくりと声掛け
 - ② プライバシーの保護
 - ③ リサイクルなど環境への配慮
 - ④ 官設民営型センターであることの意識
- (3) よりよい活動支援に向けて
 - ① 協働推進課との定期的な情報交換
 - ② 定期的な職員ミーティング
 - ③ よりよい「中間支援」の在り方に向けた取組
 - ④ 事業開催時の参加者へのアンケート実施
 - ⑤ 団体情報の整理・分類による現状把握と団体のニーズ把握
 - ⑥ 多様な財源確保に向けて支援力の向上

1 施設管理

(1) 開館日

水曜日及び年末年始(12/29~1/3)、祝日(土日を除く)を除いた日を基本の開館日としている。

開館日数: 295日 ※8/6(水)は、お祭りの為開館。

休館日数: 70日

（２）開館時間

９：３０～１８：００

※利用団体の講座などの準備に合わせて、スタッフは９時より出勤

※夏まつり期間中計５日間（水曜含む）は２１時半まで開館

※登録団体の時間外利用は柔軟に対応

（３）各種手続き書類・フォームの配置

①市民活動団体向け

- | | |
|---|--|
| ☐ 登録市民活動団体への提供サービスのしおり | ☐ 市民活動団体登録・変更用紙 |
| ☐ 会議利用報告書 | ☐ ブログ反映機能申請書 |
| ☐ 印刷機利用カード | ☐ 機材借用書（貸出） |
| ☐ 持込みイベント申込書・報告書 | ☐ インターネット使用簿 |
| ☐ 窓口業務依頼申請書 | ☐ ボランティア募集フォーム |

②内部用

- | | | |
|---|-----------------------------------|-----------------------------------|
| ☐ 相談内容入力フォーム | ☐ 機材貸出予約簿 | ☐ 拠点利用フォーム |
| ☐ 日計表（日別集計表・累計表・月別平均表） | ☐ 職員業務フォーム | |
- ※内部用書類は、kintone アプリを作成し、共有する仕組みを構築

２ 普及・啓発及び情報収集・提供

積極的に情報収集を行い、市民活動の意義、社会課題の共有というメッセージ性を大切に発信した。市民目線のカジュアルな情報紙「ええやん新聞」を子育て世代の社会貢献意識の啓発を目的として、市内幼稚園、保育園、小・中学校へ配布のほか、全地域への回覧とした。その他、団体紹介のミニポスター展示をするなど、来館される方への普及・啓発も充実させ、ホームページへの支援情報、団体情報、講座レポートなど引き続き情報集積にも力を入れた。

講座など事業実施後はホームページ上にレポートを掲載するとともに、「円卓会議」など実施後はかわら版も作成し、事後の広報にも努めた。

（１）市民活動に関わる情報の収集及び整理

- ①山口市内の市民活動情報…団体ごとの個別紹介ミニポスターを作成、掲示。
- ②NPO支援情報…全国の支援情報やNPO関連図書を配置。
- ③市外の市民活動情報…全国の支援センターやNPOの情報を配置。
- ④助成金情報…募集中のおすすめ助成金情報については平置きで設置。

採択率の高い県内募集等は年間スケジュールが立てやすいように一覧カレンダーを作成。

- ⑤ボランティア情報…外から見えやすい入口付近に専用コーナーを設置。
- ⑥中央図書館における市民活動情報ラックの設置…さぼらんて情報の他、団体パンフレット等設置。

（２）広報紙等の発行

１年間の市民活動支援の事業報告や円卓会議などのかかわら版を発行し支援内容を伝える他、山口市まちづくりアンケートにある「社会のために何か貢献したい（69.2%）」という市民に対しての啓発紙「ええやん新聞」にも力を入れ、市民と市民活動や地域活動をつなぐ発信を心がけた。編集作業には市民広報スタッフを巻き込み、社会課題の当事者意識を広げる市民目線を大切にした。引き続き、SNSでの発信にも力を入れ、ターゲット毎にFacebook、LINE公式アカウント、Instagramを使い分け発信した。

①さぼらんで事業情報

○事業方針及び事業一覧『令和7年度さぼらんで主な事業・サービス保存版』

【対 象】 登録団体・地域交流センター・関係各所

【発行部数】 300 部

【形 態】 A4サイズ 両面2つ折り

○『令和6年度事業報告ダイジェスト版』

【対 象】 登録団体・地域交流センター・関係各所

【発行部数】 300 部

【形 態】 A3サイズ 両面2つ折り

②助成金情報

ア. 助成金スケジュール保存版の発行

主にさぼらんでに登録している任意団体が利用しやすい山口県域の助成金情報を「助成金スケジュール保存版」として助成金コーナーに配置。

イ. LINE 助成金情報配信

助成金情報配信希望の団体に向け、情報を随時配信。スマホからすぐにアクセスできるよう詳細情報へのリンクを貼り、チラシの画像も添付。

【対 象】LINE 公式アカウントに登録しているさぼらんで登録団体 119 名へ年間で 11 回配信

ウ. メルマガでの配信

毎月 15 日、登録団体および関係機関等にさぼらんでからのお知らせや助成金情報等を配信。

③ええやん新聞

身近な社会課題とともに、市民活動や市民主体の取り組みを市民目線で発信することで、この層の新しい価値観との出会いや気づきを刺激していく。さらに社会課題のために自分にもできることがあると思えることで、まちづくりへの参加・参画のきっかけを創出し、誰もが心豊かに暮らせる山口を目指す市民を増やすことを目的とする。

【発行内容】

- ・発行回数：年 2 回（9 月 1 日／2 月 1 日）
- ・発行部数：各号 30,000 部（2026 年 2 月 1 日発行分より本紙：20,000 部、ダイジェスト版：10,000 部）
- ・対象：市民（主に 20 代～50 代の子育て世代想定）
- ・配布先：小・中学校、市内公立幼稚園、一部私立幼稚園、山口市内の大学、21 地域交流センター、子育てひろば、山口市全地域回覧、道の駅、山口市内マルキュウ9店舗、他

【特集内容・テーマ】

今年度は地域で行っている安心安全に過ごすための取組に注目し、前期は「安心安全な地域づくり」をテーマに、安心安全な地域を支える活動として、地域づくり協議会を取り上げた。

また、取り上げるにあたり協働推進課の担当者を招き、自治会の背景と活動紹介、地域づくり協議会の地域での役割について勉強会を行った。

後期は、安心できる居場所づくりを行っている団体等を中心に発信した。

<32 号> 特集：安心安全な地域づくり

- ・ええやんピープル 中川由希さん（コミュニティカフェ ココのいえ副店長）

- ・子どもがまんなか地域 安心安全を支える活動（小鯖地域づくり協議会、大内まちづくり協議会、嘉川自治連合会）
- ・「こども 110 番の家」ってなあに？（株式会社中央寝装）
- ・アレルギーっ子も大丈夫！誰もが安心して食べられる子ども食堂（西惣にこにこ食堂実行委員会）
- ・レシピ（西惣にこにこ食堂実行委員会） ・クイズ（株式会社中央寝装） ・編集後記

<33 号> 特集：安心できる居場所

- ・ええやんピープル がっくん、さりちゃん、れんくん（みんなの種 ～Seeds for All～）
- ・安心できる居場所ってどんなところ？（山野井哲也さん、キクシェルさん、山野井陽子さん）
- ・好きなことってなんだろう？
- ・さぼらんで学生スタッフ体験談「好き」から繋がる居場所みつけた！
- ・レシピ「モーニングフレンチトースト」（軽食喫茶 jikka）
- ・クイズ（軽食喫茶 jikka） ・編集後記

【成 果】 市民意識の啓発、市民記者の人材育成を以下のとおり評価

■読者アンケート集計

項 目	3 2 号	3 3 号
より身近に市民活動を感じた（理解・関心が高まった）	35.3%	30.8%
社会課題（特集内容）について考えるきっかけ、共感につながった	25.5%	34.6%
情報提供を活用	5.9%	7.7%
はじめの一步につながる勇気、元気、やる気につながった	17.6%	11.5%
さぼらんでの周知につながった	9.8%	11.5%
その他	5.9%	3.8%

■ええやん新聞に寄せられた市民の声

- ・家、学校以外の居場所づくりを行う中川さんへの応援の声が多かった。
- ・こども 110 番の家の利用方法を知れた、身近に感じたという感想が多く寄せられた。
- ・「子どもの意見で地域課題を解決！」記事への感想が少なかった。
- ・地域の活動を知れたという人が多かった。
- ・アレルギー対応の子ども食堂の取組に感心したという声や、子ども食堂を利用しているが知らなかったなどの感想をいただいた。
- ・ガパオライスを作りたいという感想が多く寄せられた。
- ・高校生 3 人の生きづらさを抱えながら大人に伝えるために活動を行っていることに感銘を受けたという意見が多く寄せられた。
- ・山野井さんの志に感動した、jikka に行ってみたいという感想をいただいた。
- ・e スポーツ×フリースクールの記事には、ゲームに興味のある子だけでなく様々なタイプの子どもが緩く関われる環境が素晴らしいという感想をいただいた。

■モニター会議

ええやん新聞発行後に各回 5～6 人程度の読者層の方にご協力いただき、感想を共有する場を設けた。

■モニター参加者の声

- ・住んでいる地域以外の取組を知るきっかけになったという意見をいただいた。
- ・フルカラーでとても読みやすいという声を多くいただいた。

- ・文字数が多く、字が小さいため読みにくいというご指摘をいただいた。
- ・興味がないと中面まで開かないという声が寄せられた。
- ・取り上げてほしいこととして、子育ての困りごとの解決方法、子どものためになる豆知識を知りたいという意見をいただいた。

■担当課への事業説明

ええやん新聞発行後に、協働推進課の職員に向けて内容説明を実施した。

記事概要に加え、制作過程や課題について共有し、理解促進を図った。また、意見聴取の機会を設け、今後の紙面づくりに向けた参考とした。

■さぼらんで前でのええやん新聞配架分持ち帰り数推移（バックナンバー含む）

令和5年度	令和6年度	令和7年度
705	1143	1692

よく持ち帰られる紙面は、新刊以外は30号、22号、24号、31号。

（3）ホームページ

さぼらんでの講座情報、休館等については即時「お知らせ」へ、主催講座等の事業報告を「さぼらんでレポート」で即時発信。ニーズの高い団体ボランティア募集情報については、ホームページの内容を公式LINE、インスタからも拡散。登録団体情報が見られるポータルサイトとしても機能している

■アクセス数は：83,800件（昨対比86%）実人数：29,484人（昨対比128%）

アクティブユーザー数：81件/日。

①登録団体ブログ反映機能の利用

	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
利用団体数	325	333	329	322	322	319
更新団体数	42	31	33	46	41	47
年間記事数	1,117	1,075	976	1585	1,310	1,460

登録団体（325）の基本データは全て掲載。

②ホームページ等での情報発信

お知らせ：9件 講座等レポート：13件 さぼろぐ（ブログ）15件

（4）SNSの活用

①Facebook：さぼらんでの近況報告及び団体活動を発信。

②Instagram（ボランティア）：主に市民に向け、ボランティア募集情報を発信。

③Instagram（ええやん）：主に市民に向け、ええやん新聞の裏話などを発信。

④LINE 公式アカウント：登録者（499人）に向け、主にさぼらんででのイベント・講座情報等を発信。

⑤メルマガ：登録者（216人）に向け、さぼらんでからのお知らせをはじめ、助成金情報、団体紹介などを配信。

	Facebook	Instagram（ボランティア）	Instagram（ええやん）	LINE
いいね、フォロワー数	1007	769	315	499
年間記事数	26	10	16	87

(5) 市役所ロビーなどにおける市民活動出張展示

①市ロビー展示

写真やキャッチコピーで団体の活動内容が一目でわかる「市民活動紹介ポスター」、市民活動クイズなどを展示し、幅広い市民に向けて市民活動情報の提供を行った。今年度は市役所移転のため、時期を早めて小規模に開催した。

【展示内容】 ・さぼらんて広報紙(ええやん新聞) ・さぼらんて事業報告・事業予定
・登録団体活動紹介ミニポスター (35 団体) ・団体パンフレット等
・市民活動めぐりクイズ展示 (3 問)

【展示場所】開催日：令和 7 年 3 月 10 日(金)～3 月 28 日(金) 場 所：旧山口市役所ロビー

②山口市立中央図書館

市民活動団体のパンフレットやさぼらんての広報紙を設置し、図書館を活用しているがさぼらんてにはなかなか足を運ぶ機会のない市民へ市民活動の周知を行った。

【展示内容】・団体パンフレット等 ・ボランティア募集情報
・さぼらんて広報紙(ええやん新聞)・さぼらんて事業報告

【展示場所】山口市立中央図書館 子どもコーナーそばのラック

③山口市ボランティア連絡協議会交流会(イベントでの展示)

市ボ連交流会来場者が主に高齢者層なので、クイズやチャートなどターゲット層がわかりやすく興味を引くものを案内した。ミニポスター展示も市ボ連に登録のある団体を主とした。

【展示内容】・団体ミニポスター(26 団体) ・ええやん新聞第 27 号～32 号
・さぼらんて 20 周年リーフレット ・団体クイズ 3 問
・あなたは何タイプ?チャート、つながる缶バッジ 等

【展示場所】開催日：令和 7 年 11 月 17 日(月) 13 時～15 時半
場 所：山口県総合保健会館 2 F 多目的ホール

(6) ボランティア募集の発信強化

①ホームページで市民に発信

トップページに新情報を 3 件ずつ掲載、表示画面も関連画像を加えて視覚的にわかりやすく、情報も項目ごとに整理して掲載した。また、ホームページのボランティア情報を簡単に印刷できるようにした。

②拠点で市民に発信

さぼらんて入口に「ボランティアコーナー」を設置して、ホームページのボランティア情報を印刷し掲示するとともに、持ち帰りできるようにした。随時募集の情報を保存版として 1 枚にまとめて配布した。

③SNS で発信

ホームページに掲載したボランティア募集情報をさぼらんての SNS(公式 LINE とボランティア情報に特化した Instagram)でも発信し、市民や団体へからも拡散できるようにした。

(7) マスコミ等の活用

報道機関へ広報紙の配布及び事業ごとのプレスリリースを実施。

3 相 談

(1) 相談・問い合わせへの対応

市民の市民活動への参加や市民活動団体の活動充実のために対面・電話・メール、Zoomによる相談に応じ、助言を行い、内容によっては、他機関・窓口を紹介しマッチング。

○相談件数 521件 (来所 289件、電話等 232件)

○問い合わせ件数 234件 (来所 145件、電話等 89件)

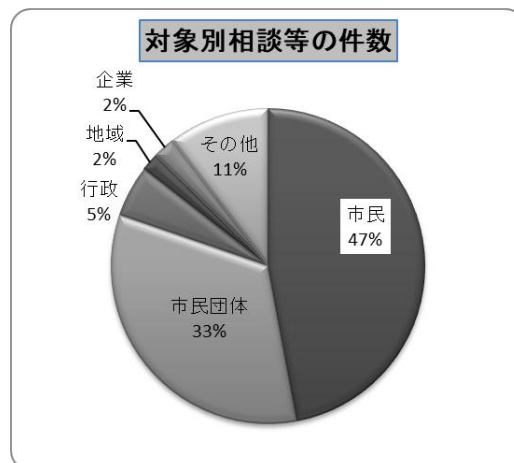
(2) 相談・問い合わせの内容の一覧化

【参考】相談等の内訳

(相談と特記事項がある問合せの一覧を分類したもので、相談数値集計とは一致していません。)

《対象別》

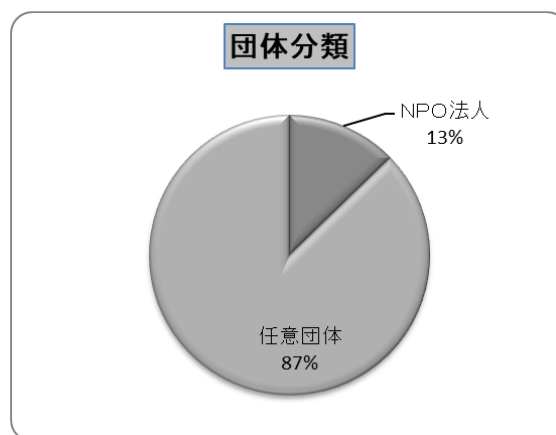
対 象	件 数
市民	355
市民団体	251
行政	40
地域	14
企業	17
その他	78
合 計	755



市民からの相談件数が、4%増加。困り事の相談やさぼらんに登録している団体についての問い合わせが増えている。又、高齢者が老後の健康の為に今できる活動を探している問い合わせも増えている。

《団体からの相談分類》

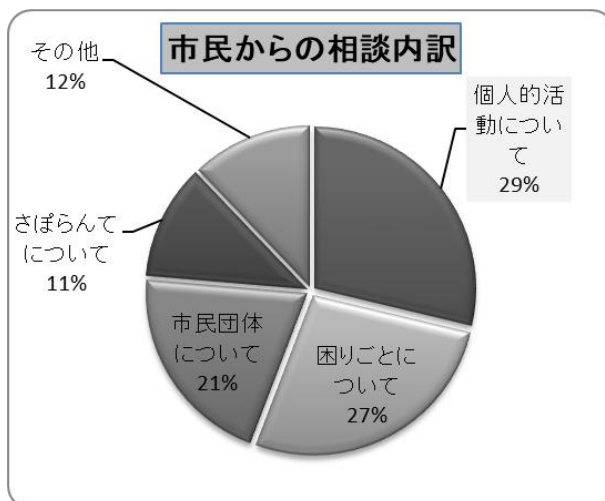
団体分類	内容	件数	
NPO法人	運営	6	32
	活動	17	
	その他	9	
任意団体	運営	77	219
	活動	103	
	その他	39	
合 計		251	251



法人からの問い合わせは昨年に比べて減っているが、昨年同様、新規の団体が増え、立ち上げに関してや事業計画の相談等が増加。又、高齢者の多い団体からは、パソコンに掛かる事務支援の相談が増加している。

《市民からの相談等内訳》

内 容	件数
個人的活動について	102
困りごとについて	96
市民団体について	73
さぼらんてについて	41
その他	43
合 計	355



市民活動が認知されてきたのか、問い合わせが増加している。中でも、高齢者が活動に参加してみたいという問い合わせが増えている。又、昨年減っていた犬猫の困り事の相談も少し増えている。

4 人材発掘・養成

2025 年度は、市民活動の担い手不足の解消に向け、人材の育成と発掘を目的とした多様な事業を展開した。ChatGPT 講座やインスタ講座、写真の撮り方講座などにより情報発信力や実務スキルの向上を図るとともに、インターンシップ受け入れや大学との PBL 連携を通じて若い世代の実践的な参画機会を創出した。さらに、大学や小学校での出前授業や高校生・大学生を対象としたリーダー育成研修を実施し、幅広い層への関心喚起と新たな担い手の発掘につなげた。これらの取組により、多様な人材が地域活動へ関わる基盤を強化した。

(1) 講座・セミナーの開催

①活動充実講座

	講座・研修	日付	講 師	参加者
1	ChatGPT 体験講座	5 月 25 日(日)	山野井哲也氏 (一社)やまぐち e スポーツ協会	8 名
2	NPO・地域づくりのためのInstagram活用講座【初級編】	9 月 19 日(金)	池田恭子氏 (きっかけねっと)	5 名
3	NPO／地域づくりのためのInstagram活用講座【中級編】	10 月 3 日(金)	池田恭子氏 (きっかけねっと)	4 名
4	助成金相談会～申請書記入のポイントを知ろう～	2 月 21 日(土)	森永 小波氏 (きらめき財団)	10 名
5	スマホでも簡単！映える写真を撮ろう	3 月 8 日(土)	岡崎悠香氏	8 名
6	表現力 UP！伝わる文章の書き方講座	3 月 23 日(月)	大内絵美氏	9 名

- 2025 年は AI エージェント元年と言われ、近年、生成 AI が急速に広がり始めてきた。「ChatGPT」や「AI」と聞くと、どう使えばいいのかわからない、ハードルが高いと感じるが、団体の日常業務の効率化や活動の質の向上を目指してチャレンジしてみたいという団体の声もあり、すでに活用している方を講師に迎え、気軽に体験できる講座として開催した。

- 2、3. 紙媒体での広報だけでは、若い世代に届きにくく、自治会未加入の住民には回覧板等での情報が届かない状況が続いている。こうした中、写真中心で直感的に伝えられ、若い世代の利用率も高いインスタグラムは、新たな接点をつくる有効な手段として期待されている。今回の講座は、初心者でも安心して団体アカウントを運用できる基礎を身につけ、地域とのつながりや共感を広げる発信力を高めることを目的として開催した。
4. 助成金の獲得は、社会的信頼や、団体の組織力・運営力向上など、資金面以外の付加価値も大きく、市民活動団体が継続的に活動を行い展開していくためには大変意義があるものなので、助成金の必要性も併せて発信する。また、クラウドファンディングや寄付など助成金に代わる資金集めの方法なども団体へアプローチしていく。
5. 近年、SNS など情報発信ツールの発展により、個人で撮影した写真の発信が手軽になった。団体活動においても、魅力的な写真を撮影し発信することで、団体の認知度向上につながるメリットがある。しかし一方で、手軽になったことにより、著作権や肖像権などを知らずに侵害してしまう問題も生じている。そこで、団体のさらなる情報発信の支援を目的として、SNS 掲載時の注意事項などネットリテラシーの確認と撮影実践を組み合わせた写真講座を実施した。
6. 新たな担い手の確保には、活動内容を広く発信するための広報が不可欠である。そこで、「活動の広報を行う際の文章の書き方」をテーマとし、広報文章作成の際の注意点や、効果的なキャッチコピー・タイトルを考えるためのヒントを中心とした内容で開催した。また、2 月 21 日に実施した助成金講座の参加団体の継続的な参加を見据え、内容の差別化を図るとともに、対象を団体関係者に限定せず、地域関係者も気軽に参加できるよう周知を行った。

②さぼらんてスタッフによる出前講座等

日付	講座・研修	対 象	受講者
2025/4/24	山口県立大学ソーシャルワーク演習	山口県立大学社会福祉学部	65 名
2025/5/19	ボランティア入門	山口県立大学社会福祉学部	85 名
2025/5/23	令和 7 年度山口市学校保健会研修協議会「子どもが考える多様な学びについて～子どもの声を聞いてみよう～」(ファシリテーター)	学校保健会	74 名
2025/6/3	ボランティア入門	山口松風館高等学校ボランティア部	17 名
2025/7/1	令和 7 年度市町社会福祉協議会 地域福祉・ボランティア担当職員研修会 事例発表	山口県社会福祉協議会	34 名
2025/8/24	第 1 回「みんなねフェス」(ファシリテーター)	一般	約 30 名
2025/11/4	ボランティア入門	山口大学ひと・まち未来共創学環公認サークル SCCI	15 名
2025/11/9	「チョコレートな人々」映画上映会・トークショー (ファシリテーター)	一般	約 80 名
2025/11/11	良城小学校総合学習	小学 4 年生、教員	約 150 名
2025/11/17	令和 7 年度 市ポ連交流会 講演「さぼらんてとつながろう」	山口市社会福祉協議会	約 60 名

(2) 市民活動・地域団体等への運営支援

任意団体、NPO 法人への運営支援やコーディネート、これから立ち上げる団体への支援などの継続的な寄り添い支援に力を入れた。

① 運営支援等 のべ 52 団体（法人 2 団体、のべ任意団体 48 団体、2 地域）へ 144 回

内 容	団体数	回数
団体運営支援（組織、会計、マッチング、研修会など）	16 団体	61 回
立ち上げ支援	4 団体	8 回
オンライン講演会開催への支援	1 団体	2 回
チラシ・パンフ・ブログ・HP 開設等情報発信支援	17 団体	48 回
事業計画づくり、助成金申請の支援	11 団体	17 回
活動紹介動画作成	0 団体	0 回

② アワードへの推薦

「チャレンジやまぐち！地域貢献賞」など 4 つのアワードに 4 団体・1 企業の推薦を行った。

(3) インターンシップ推進事業

山口県インターンシップ推進協議会より以下のとおり受け入れ、実施。

【夏期】

○実施期間：令和 7 年 8 月 28 日(木)～9 月 2 日(火) ※日曜除く 5 日間

○参加学生：3 名(いずれも山口県立国際文化学部国際文化学科 3 年)

○協力団体：こども明日花プロジェクト、NPO 法人あっと

○内容：オリエンテーション／市民活動とは／さぼらんての概要と事業説明／ええやん新聞発送作業／子どもの居場所・学習支援でのボランティア体験／子育てひろば見学／団体ミニポスター作成 など

【春期】

※希望者なし

(4) 山口芸術短期大学 PBL 協力

近年、山口県内の多くの大学では、地元企業や行政、地域活動、市民活動と連携して課題解決型学習（PBL）への取り組みが進められており、山口芸術短期大学と山口市が包括連携に関する協定を結んでいることから、数年前より大学からの要請を受けて地域づくりへの参画をテーマに市民活動を実践の場として提供するとともに、団体マッチングを行っている。今年度は、不登校児とその家族の支援を行う「トーキョーコーヒー山口」の団体パンフレットの作成の他、学生が指導する絵画教室を 3 か所で実施。山口芸術短期大学デザイン表現学科 2 年生 16 名が参加。

(5) 高校生・大学生リーダー育成事業

今年度は、①米、②伝統工芸（大内塗）、③郷土料理、④湯田温泉こんこんパークの 4 つの地域資源をテーマに、フィールドワークに重点をおいた探求学習と対話を重ねながら、持続可能な未来に向けた具体的な提案を形にした。（全 9 回）

※この事業は、さぼらんて職員（2 名）を含む任意団体山口トップランナープロジェクトとして公益財団法人マツダ財団より助成を受けて実施。

1) 講師：青木幸子（PBL 講座）／黒川康生氏（導入キックオフ）／大草快貴（プレゼン講座）

2) 受講者

●高校生：15名

山口高等学校（1名）／山口松風館高等学校（9名）／トライ式高等学院（1名）
／S高等学校（1名）／防府商工高等学校（1名）

●大学生：12名 山口大学（2名）／山口県立大学（10名）

3) 協力：萩わくわくベース／小郡みんな食堂実行委員会／湯田温泉こんこんパーク／大内塗漆器 振興協働組合／徳地の米農家さん 他

4) 年間スケジュール・内容

時間：10:00～12:00

場所：さぼらんて

- ① 6月8日(日)：キックオフ
- ② 6月22日(日)：課題発見
- ③ 7月6日(日)：課題の深掘り
- ④ 7月20日(日)：ビジョンづくり
- ⑤ 8月24日(日)：アイデア出し
- ⑥ 9月14日(日)：具体的なアクション
- ⑦ 10月19日(日)：プレゼンテーション講座
- ⑧ 11月9日(日)：発表準備
- ⑨ 12月7日(日)：成果報告／終了証授与式

★上記に加え、10月12日(日)高校生・大学生企画による地域資源発信を目的としたイベント「やまぐち発見フェスタ 2025」を実施。※内容は別紙チラシのとおり

5 協働促進・ネットワークに関する業務

(1) 円卓会議

社会課題を解決するために、その社会課題やテーマに関わる団体、企業、行政、個人が集まり、つながり、フラットに話し合える場「円卓会議」を企画・開催した。

【円卓テーマ】「不登校児の中学校卒業後の支援を考える円卓会議」

論点提供者：山口市健康福祉部 地域福祉課 地域福祉担当 松永俊夫さん

参加機関：山口市健康福祉部 地域福祉課地域福祉担当／山口市教育委員会 学校教育課／こども明日花プロジェクト／SSW（スクールソーシャルワーカー）／みんなの種～Seeds for All～／山口市地域生活部 協働推進課地域づくり担当／一般社団法人 HappyEducation／親の会カフェ山口～起立性調節障害と不登校を考える～／山口市こども未来部 子育て保健課家庭児童相談室／山口市社会福祉協議会／医療生活協同組合 健文会地域福祉室／ふくまる相談室／川西地域包括支援センター／家庭教師姫山塾／ソルシオアカデミー／小郡みんな食堂／青年海外協力隊山口県 OB 会山口支部／一般社団法人 やまぐち e スポーツ協会／ブルーライトやまぐち／医療生活協同組合 健文会地域福祉室／山口大学大学院 人間社会科学研究科

【1回目】不登校児の中学校卒業後の支援について意見交換

日時：2025年7月18日（金）13時30分～15時30分

参加者：登壇者8名、オブザーバー18名

【2 回目】1 回目の意見を受けてのグループセッション

日時：2025 年 9 月 8 日（月）13 時 30 分～15 時 30 分

参加者：登壇者 7 名、オブザーバー 22 名

■団体に協力を促し、当事者やその家族 36 名に対し事前アンケートを行い、市内の不登校児の中学卒業後の支援について現状を把握することに努めた。

（2）企業×NPOのつながりづくりプロジェクト「支え人。」

プロジェクトスタートから 12 年。寄付金贈呈式は各企業店舗で開催され、団体からの報告・お礼と、企業から応援メッセージを賜る顔の見える関係づくりに努めた。

【令和 7 年度実績】

寄 付 金 総 額 28,118 円

12 年間の寄付総額 1,804,634 円

エントリー NPO 法人：①認定 NPO 法人こどもステーション山口

②NPO 法人あっと

協 力 企 業：① 木のおもちゃ専門店 リンドヴルム

② （株）モリイケ

（3）複数団体によるコラボイベントの企画

商店街における「山口市ちょうちん祭り」を盛り上げ、かつ効果的に活動 PR と活動資金の調達が行えるようコラボによる「チャリティ屋台」を提案し、登録団体へ参加を呼びかけた。併せて、ネットワークづくりにつながるようオリエンテーションも実施。

■参加団体：11 団体（9 ブース）

■資金調達合計：466,010 円

（4）仮想理事会

こどもステーション山口では、活動の継続にあたり資金確保が課題となっており、特に企業寄付など新たな財源の可能性を検討する必要があった。一方で、団体内部だけでの議論では視点が固定化しやすく、自団体の強みや社会的価値を客観的に捉え直す機会が不足していた。そこで、企業や行政、他 NPO、ファンドレイザー、社会起業家など外部の有識者を仮想理事として招き、第三者の視点から意見やアイデアを得る場として 2 回の仮想理事会を開催。外部の視点を取り入れることで、団体の新たな強みの発見や、企業寄付を戦略的に考える必要性が明確になった。

■実施：2025 年 10 月 21 日(火)／2026 年 2 月 27 日(金)

■参加者：こどもステーション理事 2 名、企業 4 名、行政 1 名、NPO 4 名（計 11 名）

（5）株式会社丸久×動物愛護団体による連合会

近年、地域社会では、動物と人が安心して暮らせる環境づくりが求められており、保護団体が抱える負担の増大が課題となっている。一方で、家庭で余ってしまった未使用のペットフードが廃棄されるケースも少なくなく、フードロスの観点からも有効活用の仕組みが必要とされている。こうした状況を受け、地元企業である株式会社丸久（以下、丸久）は家庭に眠るペットフードを集め、必要とする団体や家庭へ届ける「ペットフードドライブ」の取り組みを始めた。2025 年 10 月、防府市内の 2 店舗にてペットフードの回収ポストを設置し、試験運用を開始。2 か月足らずで予想を超える量が集まり、丸久では、ペットフードの管理、回収、適切な団体への配分という 3 つの課題を抱えていた。当初、丸久では

寄贈先を法人格を持つ団体に限定していたが、山口市内の店舗へ展開するにあたり、該当団体がなかったことからさぼらんてを窓口とする任意団体まで対象を拡大することを検討。このことについて、丸久、団体の双方からの相談を受け、さぼらんてが調整、運用のサポートを行うこととなった

■山口ペットフードドライブ連合会加盟団体：さくら猫やまぐち、いのちの居場所、ドッグサポートきずな

■これまでの回収量：81.1kg（実施期間：2026年1月～3月）

（６）商店街連合会と団体の協働伴走支援

商店街連合会と連携し、映画上映会「チョコレートな人々」を実施した。上映にあわせてトークイベントも開催し、多様な人々の働き方や共生社会について考える機会を創出した。商店街を会場とすることで、来場者が市民活動に触れるきっかけとなり、団体の認知向上と新たな関係づくりにつながった。商店街との協働による効果的な発信の可能性が示された。

■11月8日 映画上映会「チョコレートな人々」を開催 来場者36名

■11月9日 映画上映会およびトークイベントを開催 来場者75名

（７）山口市商店街および山口商工会議所との協働・連携

さぼらんてが商店街に立地する特性を生かし、商店街連合会や山口商工会議所等と連携して、市民が日常の中で市民活動に触れる機会を創出した。また、商店街や関係機関との関係づくりを進めることにより、団体活動のPR、商店街のにぎわい創出、関係機関との連携強化を図った。

■12月7日 クリスマスマーケットへの協力（展示・ワークショップ）

■12月11日 中心市街地活性化意見交換会（第1回）参加

■3月5日 中心市街地活性化意見交換会（第2回）参加

■通年 商店街イベントにあわせた団体の活動機会を提供

■通年 商店街との連携調整・広報支援・関係構築

（８）山口市社会福祉協議会との協働・連携

山口市社会福祉協議会と定例的な情報交換会を行い、ボランティア支援や市民活動に関する連携を継続した。市ポ連交流会では展示・講演を通じて活動の周知を図り、県社協主催の市町社協職員研修会では連携の事例発表を実施。相互理解とネットワーク強化を進め、地域福祉と市民活動をつなぐ協働の基盤づくりにつながった。

■7月1日 令和7年度市町社会福祉協議会 地域福祉・ボランティア担当職員研修会

■市社協担当者との定例会（①8/19 ②10/28 ③1/19 ④3/23）

■11月17日 市ポ連交流会（講演および展示）

■3月16日 市ポ連個人ボランティア交流会

（９）その他のネットワーク

① 関係各所との連携に向けて、以下のとおり視察受入れ及び関係会議、交流会等に参加。

日付	会議名	主 催	場 所	職員参加
2025/4/25	デロイトトーマツ視察受け入れ	さぼらんて	さぼらんて	1名
2025/5/16	しものせき市民活動センター （梅光大学学生）視察受け入れ	しものせき市民活動センター	さぼらんて	2名
2025/5/16	ソーシャルビジネスと地域協働 事業のコーディネート	一般社団法人七福	さぼらんて	2名

2025/5/20	こんこんパーク読み聞かせボランティア団体向け説明会	日本出版販売株式会社	湯田温泉 こんこんパーク	2 名
2025/5/27	令和 7 年度第 1 回県民活動ネットワーク会議	やまぐち県民活動支援センター	パルトピア	3 名
2025/5/29	山口きらめき財団助成金交付式	山口きらめき財団	防長苑	1 名
2025/5/30	災害時できるかも大交流会 2025	やまぐち県民ネット 21	やまぐち県民活動支援センター	1 名
2025/6/22	はぴカフェ	(一社) Happy Education	さぼらんて	1 名
2025/7/1	令和 7 年度市町社会福祉協議会地域福祉・ボランティア担当職員研修会（事例発表登壇）	社会福祉法人 山口県社会福祉協議会	山口県社会福祉会館	1 名
2025/7/4	マツダ財団オンライン交流会	公益財団法人マツダ財団	オンライン	1 名
2025/7/9	大内御堀における猫の多頭飼育崩壊対策会議	環境衛生課	環境衛生課	1 名
2025/8/2	宇部市民活動センター視察受け入れ	NPO 法人うべネットワーク	さぼらんて	2 名
2025/8/15	宇部市「若者ふりスペース」視察	山口市障がい福祉課地域福祉部	宇部市若者ふりスペース	1 名
2025/8/16	山口市役所インターンシップ受け入れ	山口市協働推進課	さぼらんて	3 名
2025/8/23	県民つながるフェスタ説明会	やまぐち県民活動推進実行委員会	パルトピア山口	1 名
2025/9/16	大学協働連携会議	山口大学ひと・まち未来共創学環公認サークル SCCI	さぼらんて	1 名
2025/9/21	たねカフェ「こどものみまもり意見交換会」	NPO 法人市民プロデュース	やまぐち県民活動支援センター	1 名
2025/10/4	県民つながるフェスタ 2025 説明会	きららでキラリ！プロジェクト事務局	パルトピア	1 名
2025/10/23	宮野小学校人権講演会 視察	宮野小学校	宮野小学校	1 名
2025/10/25	表彰式（チャレンジやまぐち！地域貢献賞、県民活動きらめき賞、企業ボランティア活動促進事業所指定）	山口県	山口きらら博記念公園	1 名
2025/10/26	きららでキラリ！県民つながるフェスタ 2025 ブース出展	山口県民活動促進実行委員会	山口きらら博記念公園	2 名
2025/10/27	山口市小学校校長会	山口市教育委員会	山口市不燃物中間処理センター	1 名
2025/11/10	やまぐちコネクト第 1 回交流会	山口商工会議所	湯田温泉ユウベルホテル	2 名
2025/11/17	令和 7 年度 市ポ連交流会	山口市社会福祉協議会	山口県保健会館	2 名
2025/11/18	しものせき市民活動センター（梅光大学学生）視察受け入れ	しものせき市民活動センター	さぼらんて	3 名
2025/11/30	第 1 回ペットフードドライブ協議会	さぼらんて	さぼらんて	2 名

2025/12/11	第1回 中心市街地まちづくり関係者意見交換会	山口市商工振興部中心市街地活性化推進室	山口市役所	1名
2026/1/18	県民活動新企画提案コンテスト成果報告会	やまぐち県民活動促進実行委員会	やまぐち県民活動支援センター	1名
2026/2/13	第2回県民活動ネットワーク会議	やまぐち県民ネット21	やまぐち県民活動支援センター	1名
2026/2/25	一般社団法人やまぐちeスポーツ協会 フリースクール視察	山口市地域福祉部	湯田温泉こんこんパーク	1名
2026/2/27	令和8年第1回山口市議会定例会	山口市	山口市役所	1名
2026/3/5	山口市小学校校長会	山口市教育委員会	山口市不燃物中間処理センター	1名
2026/3/5	第2回 中心市街地まちづくり関係者意見交換会	山口市商工振興部中心市街地活性化推進室	山口市役所	1名
2026/3/9	平生町ボランティアグループ連絡協議会視察受け入れ	平生町社会福祉協議会	さぼらんて	5名
2026/3/16	令和7年度 第1回市ボ連個人ボランティア交流会	山口市社会福祉協議会	湯田温泉こんこんパーク	1名

② 審議会等への参加

日付	会議名	主 催	場 所	参加者
2025/7/3	「チャレンジやまぐち！地域貢献賞」選考委員会	山口県	山口県庁	1名
2025/8/5	山口県県民活動審議員会	山口県	山口県庁	1名
2026/3/3	県民活動支援センター運営委員会	山口県	パルトピア	1名

6 市民活動団体事務局支援

専属の職員や拠点を持たない団体が活動しやすいように支援。

(1) 市民活動団体登録制度の運用

○令和7年度末 登録団体数：325団体（前年度333団体）

＜NPO法人46（内認定NPO法人4）団体、

その他の法人10団体、任意団体269団体＞

新規登録団体数：16団体

解散団体数：24団体

(2) 登録団体へのサービス提供

①場の利用による支援

- ・団体BOX利用：要望のあった団体に、その都度設置した。

利用団体数：24団体

- ・会議室の提供：利用件数：553件

利用団体数：50団体

- ・市民活動団体持ち込みイベントへの提供

利用件数：202件（延べ利用日数309日）

利用団体数：25団体

- ・印刷機材の提供：利用件数：177件

利用団体数：41団体

③ 事務局機能の代行による支援

郵送物等の受け取り、イベント・講座等の「連絡取次窓口」として、市民活動団体事務局機能を一部代行。イベント・講座等の「連絡取次窓口」利用件数：14件

③ 広報支援

○「さぼらんての広報紙」発送時の同封サービス

「さぼらんての広報紙」送付時に、登録市民活動団体の情報紙やチラシを同封して送付した。

又、地域交流センターへの通送便にも持ち込みをした。

利用団体数：32団体（年2回発送作業・月1の通送便持ち込み）

○マスコミ等への広報活動の助言

市民活動団体行事等において、随時、マスコミ等への記者配布等の助言を行った。

○ホームページの団体行事カレンダーへの掲載

持ち込まれた団体のイベントチラシなどの情報は全て、ホームページの団体行事に反映した。

④ 機材貸出による支援

貸出機材件数：510件

□イーゼル	120件	□マイク・アンプ	16件
□台車	99件	□缶バッジマシーン	10件
□モニター	48件	□炊飯器	9件
□延長コード	40件	□スクリーン	7件
□プロジェクター	31件	□ポット	7件
□HDMIケーブル	27件	□その他	96件

7 その他の事業

（１）館内募金箱の設置

東日本復興支援のため、さぼらんてでは寄付やカンパを募り、山口市内から東日本復興支援活動をする市民活動団体へと配分しました。

寄付金総額 31,274円

寄付先 ①りす会山口

②山口東北県人会

③山口災害救援

上記団体に10,000円ずつの配分

その他、団体設置の募金箱は以下のとおり

① ブルーライトやまぐち

② 一般財団法人 Happy Education

③ ポポメリー

④ かぎしっぽの会

⑤ いのちの居場所

⑥ さくら猫やまぐち

⑦ リレー・フォー・ライフ

⑧ こども明日花プロジェクト

⑨ ソルシオアカデミー

Ⅱ 運 営

1 職員体制

職員の内外研修により市民活動のみならず、地域づくりへの支援力の向上に努めた。また、感染対策を徹底した施設管理、利用者保護に努めた。通常時は、ローテーション勤務により平日については4～6名、休祭日については2～3名の職員配置を確保し、車の乗り入れ可能な開館1時間前の9時から対応した。

○事業スタッフ5名（常勤4名、非常勤1名）

○経理スタッフ1名

○広報スタッフ3名

○学生スタッフ5名

＊ボランティアコーディネーション力3級取得者2名配置＜NP0 法人日本ボランティアコーディネーター協会認定＞

＊NP0 法人事務力検定初級1名配置

＊日本ファンドレイジング協会認定ファンドレイザー1名配置

2 意見聴取

「さぼらんで」への意見・要望を、下記のとおり随時聴取し、運営の参考とした。

○市民活動団体来所時及び相談対応時における意見の聞き取り。

○講座開催時の参加者アンケートによる把握。

○ええやん新聞における「モニタースタッフへのヒアリング」、「読者アンケート」を実施し、これまで市民活動と関わりのなかった人の意見の聞き取り。

○団体訪問や取材時における団体運営課題などの聞き取り。

○インターンシップ時にもワークを行い、幅広い世代の人と社会課題意識の掘り下げ。

3 定例連絡会等

「さぼらんで」設置者の山口市協働推進課と運営NPO職員と、よりよい市民活動支援に向けて、連絡会を実施。事業実施におけるスムーズな連携、市民活動支援の意義の共有などができた。

【協働推進課情報交換会等】

日付	内 容	担当課	さぼらんで
2025/5/23	年間事業計画等の共有	2名	5名
2025/6/24	事業の進捗について	1名	4名
2025/7/31	事業の進捗について	2名	5名
2025/9/30	事業の進捗について	2名	3名
2025/11/25	事業の進捗について	2名	3名
2026/1/22	事業の進捗について	1名	3名
2026/3/13	事業の進捗・次年度事業について	1名	5名

4 職員研修

中間支援力向上のために、内外多数の講座・研修に参加し、参加後は職員間で内容を共有する時間を持った。

研修等参加一覧

① 運営支援のための講座・研修等 (30 回のべ 38 名参加)

日時	内 容	主催	場所	参加者
2025/4/6	ChatGPT の使い方および活用事例紹介	山野井哲也氏	一般社団法人 やまぐち e ス ポーツ協会	1 名
2025/4/24	チーム応援カフェ「フリースクール」	サイボウズ	Zoom	2 名
2025/5/28	電子申請活用セミナー	山口労働局	山口労働局	1 名
2025/7/23	地域づくりとマーケティング	やまぐち地域経営ネ ットワーク	湯田温泉こん こんパーク	3 名
2025/7/28	人間と社会のうごきをとらえるフ ィールドワーク	山口県立大学	山口県立大学 大学院	1 名
2025/8/24	グラレコ研修会？！～がんサミッ トチームのワールドカフェ説明会	山口県がんサミッ トチーム	さぼらんて	1 名
2025/9/12	NPO のための個人情報取り扱いの 基礎知識	やまぐち県民ネット 21	Zoom	2 名
2025/9/27	ほっこりカフェ	親の会カフェ～起立 性調節障害と不登校 を考える～	白石地域交流 センター	1 名
2025/10/23	スキルアップ講座（kintone 活用事 例発表）	やまぐち県民ネット 21	Zoom	1 名
2025/12/4	強くあたたかい自治会・町内会の つくり方	きらめき財団・やま ぐち県民ネット 2 1	やまぐち県民 活動支援センタ-	2 名
2025/12/4	より強くあたたく成長するチー ム作りとは	きらめき財団・やま ぐち県民ネット 2 1	やまぐち県民 活動支援センタ-	1 名
2025/12/18	令和 7 年度 スキルアップ研修 第 2 回「寄付を伝える力」	やまぐち県民ネット 2 1	Zoom	2 名
2026/1/10	はじめての法人格講座	やまぐち県民ネット 2 1	Zoom	1 名
2026/1/16	令和 7 年度山口市災害ボランティ ア研修会	山口市社会福祉協議 会	山口県総合保 健会館 多目 的ホール	1 名
2026/1/20	地域づくりのキッカケ見つけ隊 21	山口市協働推進課	小郡地域交流 センター	3 名
2026/1/27	マツダ財団 2025 年度「若ツナサミ ット」	公益財団法人マツダ 財団	チームス	1 名
2026/1/29	きらめきスキルアップセミナー第 2 回「リーダーの呼びかけ・働きかけ」	山口きらめき財団	やまぐち県民 活動支援セン ター	1 名
2026/1/30	Excel 講座 第 3 回	山口県・(公財)やまぐ ち産業振興財団	mirai365	1 名
2026/2/6	Excel 講座 第 4 回	山口県・(公財)やまぐ ち産業振興財団	mirai365	1 名
2026/2/6	きらめきスキルアップセミナー「組 織運営につかえる AI 活用」	山口きらめき財団	やまぐち県民 活動支援センタ-	1 名

2026/2/13	Excel 講座 第 5 回	山口県・(公財)やまぐち産業振興財団	mirai365	1 名
2026/2/13	協働ネットワーク強化による県民活動促進事業・情報共有会議	やまぐち県民ネット 2 1	やまぐち県民活動支援センター	1 名
2026/2/20	Excel 講座 第 6 回	山口県・(公財)やまぐち産業振興財団	mirai365	1 名
2026/2/21	研究集会 (JVCC2026) オープニングセッション、A-1	認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会市民参加と協働を進めるコーディネーション研究集会 2026 実行委員会	Zoom	1 名
2026/2/22	研究集会 (JVCC2026)、B-1		Zoom	1 名
2026/3/16	Wordpress ミニ講座	フィボナッチ	オンライン	2 名

～ほっとさろん中市「まちのえき」～

事業報告

平成 15 年 4 月 20 日、市民の交流の場となる施設【ほっとさろん中市「まちのえき」】が山口市中心商店街：中市商店街に設置され、高齢者等交流をテーマとした事業が始まりました。

平成 15～18 年度は高齢者を中心とした幅広い世代交流をテーマに、平成 19～24 年度は「“ひと”と“まち”をつなぐ」をテーマに、平成 25～令和元年度は高齢者同士の交流をテーマに、令和 2 年度からはフリーマーケットも織り交ぜた重層的な交流をテーマにしつつ、特に本年度は継続事業の見直しを行い、事業の重点化を検討しました。

1 施設管理・運営

高齢者から子どもまで、障がいの有無に関係なく、誰もが気軽に交流できるサロンを商店街に設置し、管理・運営を行いました。

○開館時間 10：00～16：00

○休館日 水曜日・日曜日・祝日・盆・年末年始

○施設及び備品類の管理

○利用者統計

(単位：人)

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
開館日	20 日	20 日	21 日	21 日	19 日	20 日
利用者数	1,924	1,924	1,854	1,719	1,538	1,714
1 日平均	96	96	88	82	81	86

月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
開館日	21 日	19 日	20 日	19 日	19 日	21 日
利用者数	2,098	2,193	1,912	1,713	1,687	1,968
1 日平均	100	115	96	90	89	94

計 22,244 人

1 日平均 93 人

2 休憩・交流

“ほっ”と一息つける雰囲気を提供を心がけ、利用される方同士の交流の場や機会を提供しました。

○お茶の提供

○フリーマーケット in まちのえき

人と人とのつながりづくりを目指して、フリーマーケットを開催しました。(施設開館日の 10：00～16：00)

3 健康相談（まちの保健室）

プライバシーに配慮した個室に保健師又は助産師、看護師が常駐（1日1人の当番制）し、血圧測定を行いました。

（1）開室日時 10：00～16：00（休室時間12：00～13：00）

※水曜日、土曜日、日曜日、祝日、お盆、年末年始は閉室。

（2）会 議

対応方法等を共有するための連絡会議を開催しました（年3回）。

（3）利用状況

（単位：人）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開室日	16日	16日	17日	17日	14日	16日
利用者数	88	90	105	116	100	128
1日平均	6	6	6	7	7	8

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開室日	17日	14日	16日	15日	14日	17日
利用者数	127	113	119	97	93	118
1日平均	7	8	7	6	7	7

計 1,294人

1日平均 7人

4 情 報

（1）「まちのえき」リーフレット令和7年度版の発行（950部）

（2）店頭情報コーナー設置

（3）情報誌の発行

○まちのえきだより（月1回 各410部）

「まちのえき」からのお知らせ、皆さんから教えていただいた情報、スタッフのつぶやきなどを掲載しました。

（4）情報誌の発送

希望者に「まちのえき」の情報誌を発送しました（登録6名）。

（5）SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）での発信

「まちのえき」の状況や商店街の様子、スタッフの日常などを発信しました。

○Instagram

https://www.instagram.com/machinoeki_yamaguchi/

5 移動機器の貸出

○貸出日時 施設開館日の10：00～16：00

○貸出状況

・車いす2回 ・シルバーカー1回

令和7年度 こども明日花プロジェクト 事業報告（案）

I 経過・内容

「子どもの貧困問題」の解決に向け、2016年5月14日発足式で活動開始を発表した「こども明日花プロジェクト」の活動第10事業年度は、電気代や食品等の値上がりなどの物価高騰、さらにお米も高値が続き、給料は上がらないまま、ひとり親家庭などの家計への影響は大きく、食支援へのニーズが高まっています。

新型コロナの影響もほぼなくなり、活動自体は元に戻り、学習支援や居場所づくりは、一緒に勉強したり、遊んで、一緒にご飯を食べており、こども食堂も、通常開催（会食）となり、「みんなで一緒に食べる」これまでどおりの風景です。

一方、ひとり親家庭などの家計の厳しさは、実感としてコロナ禍以上で、最近の物価高騰に加えて、お米の値段も高止まりし、「親がお米を食べずに我慢する」は続いているようです。こども明日花プロジェクトは、これまでと同様に「みんなにエール！弁当」や「ごちそうさまプロジェクト」、さらに、「フードパントリー」など継続実施し、ひとり親家庭等の「食」を応援しました。

また、昨年度も、休眠預金など、各種の民間助成金を活用して、県内のこども食堂などと連携した県ネットワーク事業として「県下一斉フードパントリー」などを継続して実施しました。また、日本財団による「子ども第三の居場所・萩拠点」は地元萩市の事業化はされず、一部の助成金を活用して、居場所や学習支援、こども食堂などの事業を実施しましたが、多くは自己負担であり、令和8年度も萩市の事業化はなく、厳しい状況が続きます。一方、日本財団のこども第三の居場所・大内拠点は土地を取得し、建設、本年2月に山口市長をお迎えして開所式を行い、こどもの受入を開始しています。

県の委託事業は、6年度から「地域こどもの居場所づくり体制強化事業」となり、こども家庭庁が掲げる「こどもの居場所」づくりを重点に取り組むこととし、県や市町が「こどもの居場所づくり」に取り組む体制づくりに連携して取り組みました。

活動当初から掲げている「ファンドレイジング～行政に頼らない資金調達」についても、山口県共同募金会「赤い羽根テーマ募金」や「子どもの未来応援企業」様からの継続寄付、マンスリーサポーターの皆様からの御寄付などにより、活動を支えていただいておりますことに、改めて感謝申し上げます。引き続き、多くの企業や個人の皆さんからの御期待に応えるため、困難を抱える家庭やこどもたちを包括的に支える仕組みづくりに取り組みます。こども家庭庁が掲げる「こどもまんなか社会」実現を目指し、行政や企業、地域などを巻き込み、一体となって、取組を進めてまいります。

ただ、物価高騰により購入する米や食料品の値上がり、支援を必要とする家庭数の増加により、7年度は食材費が嵩み、助成金と寄付では賄えない状況となっており、今後、支援を継続するには寄付等収入の大幅な増加が必要となっています。

当プロジェクトのこれまでの実績とネットワークを基盤とし、取組の加速化や強化に努めるとともに、新しい課題にもチャレンジしていきます。そのためには、引き続き、事業の言語化と丁寧なコミュニケーションを図り、理解と支援を広げ、引き続き、活動の充実強化を図ってまいります。

○プロジェクト名 「こども明日花プロジェクト」

○ビジョン

どんな環境に生まれ育っても、子どもが明日（あす）に希望を持てる社会を実現する

○ミッション

1. 子どもたちが安心して過ごせる居場所と学びの環境を提供し、自立を支援する
2. 身近な大人が子どもたちを見守り、受け止める地域をつくる
3. 生活困窮など困難を抱える家庭が地域で孤立しないよう見守り、支える

- 事業内容
- ・「学習支援」無料学習会（食事付き）、リモート学習会
 - ・「生活支援」食事支援（こども食堂）、フードパントリー（食品配布）
 - ・「居場所づくり」課題を抱える子どもたちが安心できる居場所づくり
 - ・普及啓発・人材育成などの中間支援、地域の包括支援の体制づくり
 - ・ひとり親家庭等、生活困窮家庭を支える食料等の提供など

Ⅱ 事業内容

1. 学習支援

① 無料学習会

毎週土曜日、午前中、主にひとり親世帯や就学援助対象世帯などの中学生を対象に無料学習会（昼食付）を山口市内 5 カ所+1 カ所（阿知須：食事なし）で実施。

会場	期間	回数	延べ 参加者数	ボランティア		
				学習	調理	合計
湯田	2025.4 ～2026.3	42 回	258 人	190 人	178 人	368 人
平川	建替え工事で休止	回	人	人	人	人
小郡	2025.4 ～2026.3	44 回	223 人	154 人	102 人	256 人
大内	2025.4 ～2026.3	44 回	303 人	154 人	44 人	198 人
宮野	2025.4 ～2026.3	33 回	83 人	69 人	41 人	110 人
	4 カ所 計	164 回	867 人	567 人	365 人	932 人
阿知須	2025.4 ～2026.3	18 回	52 人	※学習教室スマイルと合同		

※阿知須は 2022 年 4 月から地元団体と合同実施。

※大内会場は、土曜午後は部活等で参加しにくいとの意見があり、2022 年 9 月から木曜夕方に変更（夕食準備）、小郡会場も 2024 年 4 月から変更し、参加者も増加した。

② リモート学習会

家が遠いなどの理由で学習会に参加できない中学 3 年生にタブレットと無線ルーター（必要な家庭）を貸し出し、毎週金曜 19～21 時、ボランティアによるリモート学習会を実施（参加者 1 人、5 月 9 日から 2 月 12 日まで、のべ 35 回 35 人参加）。

2. 居場所づくり事業（山口市委託事業）

主にひとり親世帯の子どもを対象とした「子どもの生活・学習支援事業（上記の学習支援を含む）」を受託、毎週土曜（午後 3～7 時）、生活支援・食事支援（夕食）

会場	期間	回数	延べ参加者数	ボランティア		
				学習	調理	合計
湯田	2025.4～2026.3	45 回	300 人	308 人	135 人	443 人

※「夏のイベント・JOYPOLIS ツアー（北九州市小倉）」2025 年 8 月 2 日（土）

様々な「体験」の場を提供するため、毎年、海や山などにバスツアーを実施。
今年は大規模アミューズメントで、夏休みの思い出づくりを行った。参加は 33 人。

※オープン・ハウス（なのはなハウス）

平日、毎週木曜（のべ 36 回）と、夏休み期間中（のべ 7 回）、なのはなハウス
を開放し、不登校の中学生の受入（のべ 67 人）、夏休みで家では暑くて勉強でき
ないなどのこどもたちが利用し、昼食等も提供。夏休み期間中は 7 日のべ 79 人。

※「新入学記念品」プレゼント

学習支援・居場所づくりに参加の子どもたちや、市内の主任児童委員などから
寄せられた情報に基づき、29 人小学校 人、中学校 人、高校 人に記念品贈呈。

3. 子どもの見守り強化事業（山口市委託事業）

コロナ禍で孤立・困窮する子育て家庭等を弁当配布等で支えた全国のこども食堂な
どの活動が評価され、2020 年度国の第 3 次補正予算で「こども食堂等が要保護児童対
策地域協議会の支援家庭を訪問、状況把握や食事提供（弁当）など」を行う「見守り
強化事業」が開始。山口市は 2020 年 10 月から始まり、当法人も委託を受け、引き続
き、各地域の見守り支援員の方々の協力を得て、見守りと弁当配布等を実施。

4. ひとり親家庭への支援（シングルカフェ）

ひとり親家庭の保護者グループ.style（ドットスタイル）との共催で、当事者同士
が支援に関する情報共有や意見交換を継続実施。会場はなのはなハウス。

① 2 月 1 日（日） 7 組の家族が参加し、お話や子ども服の提供など

※「サンタのケーキ便」

コロナ禍のひとり親家庭支援をきっかけに、県内各地に店舗のある「果子乃季（あ
さひ製菓㈱）」の協力を得て、2020 年 12 月から開催。2020 年 150 家庭、2021 年
200 個、2022 年以降は 300 個を目指しクラウドファンディング。2025 年は 300 個

5. こども若者の居住支援（中央共同募金会助成金事業）

2025 年 5 月から高校生 1 人が借り上げた民間アパートから高校に通学し、併せて
生活や食事等のサポートを行い、自立を支援した（助成金は 1 年限り）。

6. 情報発信

① フェイスブック 平成 28 年 4 月開設

② ホームページ 平成 29 年 1 月開設、ブログ掲載

③ ニュースレター（年 3 回）令和 7 年春、夏・秋、令和 8 年新年

④ 令和 7 年度活動報告（作成予定）

7. 報道

（1）新聞

1 月 25 日（日）こども食堂全県交流会と「コミュニティ財団」設立説明会

2 月 14 日（土）読売新聞、山口新聞他「こども第三の居場所・山口拠点」開所式

3 月 1 日（日）読売新聞「コミュニティ財団の設立」準備会代表の藤井さん紹介

（2）テレビ

1 月 24 日（土）YAB 山口朝日放送、TYS テレビ山口他

こども食堂全県交流会と「コミュニティ財団」設立説明会

2月13日（金）TYSテレビ山口他「こども第三の居場所・山口拠点」開所式

8. 普及啓発

- (1) 地域円卓会議 開催なし
- (2) 山口こども応援ミーティング 2025 開催なし
- (3) キッチンカー出動（こども食堂の情報発信）

2021年3月、JT助成金により購入したキッチンカーが各種イベント等への出店を通じ、こども食堂に対するイメージアップ、情報発信を行った。

9. 人材育成

社会的課題に取り組む「若き担い手（ヤングワーカー）」を育成するため、問題解決に必要な専門的知識を得るために、活動団体訪問や専門家による講演と意見交換を通じて、自ら考え、自ら行動する人材を育成する「あすはなカレッジ」を実施した。

今年度は社会的養育地域ネットなどが開催したセミナー等に参加した。

また、「ユースセンター」開設に向け、宇部市や京都市のユースセンターを視察した。

10. こども食堂・地域食堂プロジェクト

(1) こども食堂

2018年度山口市のふるさと納税を活用したクラウドファンディング事業により、2018年12月から山口市内3地域でこども食堂開設、運営している。

2020年3月以降、コロナ禍で通常開催（会食）を見合わせたが、現在は通常開催。

地域	開催回数	会 場	利用者数	ボランティア	合計
大内	11回	大内地域交流センター	1,022人	154人	1,176人
小郡	12回	小郡ふれあいセンター	2,146人	320人	2,466人
吉敷	10回	吉敷地域交流センター	1,399人	355人	1,754人
合計	33回		4,567人	829人	5,396人

※NTT西日本山口支店が11月2日大内こども食堂に「縁日」として参加

○小郡中・宮野中「学校朝ごはん」

「朝食を食べてこない」生徒に、ボランティアによる「学校朝ごはん」は小郡中学校長の理解と協力により、2019年6月から毎週水曜に実施したが、新型コロナ以降、感染状況により、実施と再開を繰り返し、2023年7月から再開した。

学校名	回数	参加生徒数	ボランティア	合計	備考
小郡中	39回	469人	164人	633人	調理
宮野中	42回	1,332人	109人	1,396人	パン、果物
合計	81回	1,801人	273人	2,029人	

○松風館高校での食事提供

2022年4月開校した県立松風館高校は定時制・通信制高校で、様々な事情のある生徒もいることから、開校前から食事提供や居場所カフェを提案、開校後は文化祭や校外活動でイベント的に年間3～4回食事を提供した。2023年5月コロナ5類移行に伴い、定期的に昼食提供を提案、7月から毎週火曜に山口県パン工業協同組合の御協力により、当初は1回300個、現在は200個のパンを無料配布。

2025 年度は 4 月から 12 月まで、のべ 28 回、パン 5,600 個（約 5,000 人）配布

（２）新型コロナ緊急支援（詳細は別途記載）

コロナ禍は収束したものの、物価高により、困窮するひとり親家庭など子育て家庭に食品の詰合せ等を配布した（フードパントリー（1,842 件）。「みんなにエール！ 弁当（のべ 5,244 食）」「ごちそうさまプロジェクト（627 家庭）」も継続実施した。

１１．地域こどもの居場所づくり体制強化事業（山口県委託事業）

2019 年度から 5 年間、続いた「山口県こども食堂サポート事業」は、こども家庭庁の発足やこどもの居場所づくりの推進などを受け、山口県ではこども食堂を含むこどもの居場所づくりに取り組むこととし、特に 2024 年度から 3 年間で市町が主体的にこどもたちの居場所づくりに取り組むようになることを目指して、地域の行政や社協、こども食堂などを対象に研修などを通じて、体制強化を図ることとなった。また、地域コーディネーターなどの体制は引き続き、維持し、調整等を行う。

なお、こども食堂は年度当初 203 カ所であったが、年度末は 220 カ所を超えている。

- ① 地域検討会議：当初予定どおり、3 か所で開催、合計 37 人が参加した。
- ② 専門セミナー：当初予定どおり、4 カ所（萩・宇部・岩国、下松）で実施（30 名）
- ③ こども食堂・こどもの居場所推進会議：これまでの委員に、学識経験者や事業運営者を加えて委員を増員し、情報共有や意見交換を行った（1 月 29 日県庁で開催）。
- ④ 居場所づくりフォーラム

7 月 29 日（金）防長青年館 持続可能総研 藤山浩所長（40 人）

2 月 12 日（木）サンワーク美祢 山口東京理科大 福田みのり先生（20 人）

2 月 21 日（土）防府市文化センター 山口大学特任教授 霜川正幸先生（20 人）

- ⑤ 県こども子育て応援ファンド助成金（こども食堂特別枠）交付等事務を実施

１２．山口県こども食堂・子どもの居場所ネットワーク（事務局）

（１）県内企業・団体等からの食料品等寄付の受入

J A 山口県（2024 年 1 月 26 日「こども食堂包括応援連携協定」調印）から、夏以降のお米の需給の逼迫にも拘らず、今年度も県内こども食堂にお米 3 トン寄付（贈呈式 2025 年 1 月 28 日）。山口県パン工業協同組合からパン 4,500 個、瑞穂糧穀から新米 5,000kg の御寄付をいただき、県内のこども食堂で配布した。また、イズミ（株）（むすびえ経由）、生命保険協会山口県協会から寄付金を受領した。県共同募金から 2025 年 6 月米購入資金 200 万円、12 月年末用 100 万円の寄付があり活用した。

2025 年 7 月 11 日（株）丸久と包括連携協定を締結し、記念事業として「こども応援弁当」（シールを貼った弁当を 1 個購入すると 10 円寄付）を開始、目標 150 万円。

不二輸送機（株）（山陽小野田市）、山口マツダ（株）から「レノファ山口」招待券寄贈

（２）スキルアップ事業（県こども子育て応援ファンド助成金「こども食堂特別枠」）

5 月 13 日（火）食品衛生講習会（講師：山本倫也氏）28 人

6 月 29 日（日）こども食堂ミニセミナー（下関市）40 人※下関市ネットワーク共催

7 月 12 日（土）ネットワークリーダーズ研修（山口市・今給黎辰郎氏）12 人

8 月 31 日（日）安心安全なこども食堂・居場所研修（山口市、鈴木桂子氏）35 名
毎月第一木曜 20 時 こども食堂助成金相談会（オンライン）

3月15日（土）ネットワーク発足記念イベント（同）70人

（３）居場所のインパクト可視化を通じた地域活性化事業

（全国こども食堂支援センター・むすびえ：休眠預金活用事業）

- ・こども食堂と地域の居場所ワークショップ（1回）15カ所、成果報告会
- ・全県交流会（1月24日、講師：湯浅誠氏）、コミュ財設立説明会同時開催（85人）

（４）子育て家庭への食支援事業

（全国こども食堂支援センター・むすびえ「休眠預金活用事業 2023 通常枠」、ひとり親家庭等のこども食支援助成事業（こども家庭庁）助成金活用）

① 県下一斉フードパントリー

夏休みの食品支援を目的に、20カ所1,160世帯に食品を配付。

② 冬のパントリー

希望するこども食堂20カ所を通じ、665世帯に食品を配付（県共募助成金もあり）。

（５）安心安全助成 ※休眠 2021 終了につき、県ネットワークへの寄付金を財源に実施 食品衛生責任者養成講習会受講料、保険料を助成 30 件

（６）こども食堂・農業支援事業（BellAgri㈱からの寄付金）

こども食堂がJA直売所等での購入代金を助成。2022年度整備したkintoneによる申請でこども食堂の申請手続きを簡素化、利用促進したが2026年3月分で終了。

（７）県ネットワークのホームページ開設

県ネットワークや子ども食堂に関する情報発信とともに、企業や個人等からの寄付（資金や物資）、ボランティア受入等の受け皿となるホームページを開設している

（８）県こども食堂マップの活用

2024年度作成した、各地域のこども食堂マップの地域版などを活用、配付した。

13. 山口市補助事業（山口市こども食堂ネットワーク）2024年度開始

11月12日（水）10～12時こども食堂関係機関意見交換会（こんこんパーク）42人

㈱丸久、山口マツダ、秋川牧園が参加。山口商工会議所女性会に寄付感謝状
意見交換会で要望のあった設備等購入（発電機、綿菓子機など）

3月初旬 山口市内各地域交流センターを通じて、こども食堂マップを回覧版に

3月29日（日）こども食堂ユニバーサルまつり（こんこんパーク）300人

こども食堂10団体が出展、地球子供食堂ダンス、西京ライオンズクラブ紙飛行機

14. 物価高騰対策

各種民間助成金等を利用し、主にひとり親家庭に対する支援を行った。

（１）みんなにエール！弁当

コロナ禍で、収入減少など困窮するひとり親家庭を応援する「みんなにエール！弁当」は2020年5月山口市でスタートし、その後、他市でも実施し、萩市、美祢市、光市、下松市の4市では各市担当者や社協職員の協力を得て、継続実施した。

山口市内のがのべ19回3,652食、4市で8回1,592個、合計27回5,244食配布。

なお、弁当は県飲食業生活衛生同業組合の協力を得て、地元の料飲組合が紹介した飲食店等に注文した。

（２）ごちそうさまプロジェクト

ひとり親家庭の「食」支援として、「宅食（食料品の託送）」「食事券（地元料飲組合の協力）」「買物券（丸久）」「お米（県産新米を配達）」を直接、各家庭に届けることとし、丸久、県飲食業生活衛生同業組合、JA山口県の協力の下、実施した。

今年は7月、1回にまとめて募集、申込のあった全627家庭に届けた。

（３）フードパントリー

2021年から継続、コロナ禍に続く物価高に苦しむ子育て家庭を支援するため、7月、県内各地域のこども食堂と連携した「県下一斉フードパントリー」（20カ所、1,160家庭）、12月「冬のパントリー」こども食堂20カ所が655家庭に配布。

山口市では、2021年11月から継続して、毎月（6カ月まで）、主にひとり親家庭約30家庭に定期パントリー実施（のべ312家庭）。事務所内は常設パントリー設置

（４）学生パントリー

2022年度からバイトや仕送り減少、物価高で困窮する大学生へのパントリーについて、昨年度に続き、山口大と山口県立大で実施。山口大は大学基金が共催（費用半分負担）し、本部・医学部・工学部でのべ3回実施（400人）、県立大は100人に配布してきたが、2024年度以降は資金不足のため、実施できなかった。

15. 子ども第三の居場所

（１）萩拠点（助成期間2022年～2024年）

①事業概要：萩市の萩明倫学舎内に2022年6月開設した「日本財団子ども第三の居場所・萩拠点」はコミュニティカフェ、居場所づくり、学習支援、こども食堂を実施

- ・開所日：2022年6月17日（金）

- ・事業内容：・コミュニティカフェ（誰でも使えるカフェ、子どもの居場所）

- ・シェアキャンパス（中高生との自由学習スペース）

- ・小学生向け学習会 毎週土曜午前実施、昼食付き

- 中学生向け学習会 毎週水曜夕方実施、軽食付き

- ・こども食堂（毎月1回実施、1回80食程度）

- ・運営体制：センター長（非常勤）、マネージャー、スタッフ、調理ボランティア
学習支援ボランティア（大学生など）

- ・支援体制：運営サポート委員会（行政、関係機関、団体等で構成。年2回程度）

日本財団の助成終了後、萩市での事業化を要請したが、実現せず、財源がなくなったため、きらめき財団等助成金を確保したが、全く足りず、開館日数や時間を減らして運営だけは継続している。財源確保が緊急の課題である。

②利用実績：利用のべ人数4,768人（子ども3,815人、大人953人）

こども食堂 12回開催、のべ376食（143家庭）

学習会 92回開催、のべ649人

各種イベント：13回実施、のべ658人参加

※レノファ山口観戦バスツアー（5月25日）22人

ほっとパントリー（ひとり親家庭対象）2025年度内6回実施、のべ300家庭

運営サポート委員会（委員9人、1回開催）

大人の学習会（至誠館大学協力による関係者の勉強会）6回

(2) 大内拠点（助成期間 2025 年～2026 年）

事業概要：山口市大内に土地を購入（造成）、施設建設、2026 年 2 月開設

「日本財団子ども第三の居場所」助成事業「包括ケアモデル（施設・車両・運営）」

開所式：2026 年 2 月 13 日（金）、運営開始：2 月 26 日（木）から

開館：受入は月火木金（水日、祝日は休み）10 時から 19 時

内容：生活支援、学習支援、夕食提供、送迎対応

体制：センター長（非常勤）、福祉職・専門職、調理ボランティア、学生他

16. コミュニティ財団の設立に向けて

休眠預金 2023 における「居場所」のための基金づくりとして、「コミュニティ財団」設立を目指すこととなり、2025 年 12 月設立準備会設置（委員 8 人）、2026 年 1 月から一般財団法人設立に必要な基本財産 300 万円について、クラウドファンディングを実施し、3 月末までに 240 件 493 万円の寄付が寄せられ、4 月 30 日付け、一般財団法人を設立、今後、公益財団法人に向けて、公益申請の手続きを進めることとしている。

17. 資金調達

(1) 各種助成金等申請

- ・福祉医療機構「令和 7 年度（補正予算）WAM助成」＜4 年目・採択＞
- ・山口県共同募金会（赤い羽根テーマ募金：10 期）＜採択＞
- ・日本財団子ども第三の居場所助成金（山口市大内拠点 1 年目建設運営）＜採択＞
- ・休眠預金活用事業 2023 通常枠（むすびえ）3 年間＜3 年目＞
- ・こども家庭庁「ひとり親家庭等食事支援事業」助成金＜採択＞食支援活動協力会
- ・内閣府孤独孤立対策モデル事業助成金（萩拠点）
- ・きらめき財団 活動助成金（萩拠点）

(2) 子どもの未来応援企業（3 社）

2016 年（株）池田建設、サン・ロード（株）

2017 年（株）TAMARU

(3) 募金箱（50 ヶ所）

(4) 寄附付自動販売機（4 台） ※協力：日本コカコーラ・ウエスト（株）

2016 年 サン・ロード（株）、防長苑

2017 年 マツダ防府工場、山口ザビエル記念聖堂

(5) クラウドファンディング

8 月 「夏休みこども応援弁当」目標額 82 万円 達成：88 件、973,100 円

11～12 月「サンタのケーキ便」目標額 120 万円 達成：92 件、1,236 千円

1 月～3 月「コミュニティ財団設立」目標額 300 万円 達成：240 件、493 万円

18. その他

(1) 中国四国こども食堂地域ネットワーク団体研修会

2025 年 11 月 8 日・9 日 広島市（むすびえ・こども食堂基金助成金活用）

(2) むすびえ 全国交流会 2026 年 2 月 28 日（土）東京都

(3) あすのば主催「あすのば 10 周年記念セミナー」

2025 年 6 月 14 日（土）・15 日（日）東京都